

回復期リハビリテーション病棟へ入院される患者さんへ

●回復期リハビリテーション病棟とは

脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などにより、身体機能の低下や日常生活を送ることが困難になった患者さんを対象に、集中的にリハビリテーションを行い、日常生活の改善、在宅復帰と寝たきりの防止を目的とした専門病棟です。入院生活とリハビリテーションを一体にして、より自立した日常生活活動の支援を行い、退院後の家庭生活の自立を目指します。

●対象患者について

回復期リハビリテーション病棟は病気の種類によって入院可能な期間が定められています。脳出血や脳梗塞などの脳血管疾患や、脊髄損傷、大腿骨などの下肢の骨折、外科手術や肺炎等治療時の安静により生じた廃用症候群（筋力低下・関節拘縮・他）など利用できる方の要件や入院期間は、以下のように定められています。

傷病名	入院期間
脳血管疾患、脊髄損傷などの発症または手術後、義肢装着訓練を要する状態 (高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の脊髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷)	150日 (180日)
大腿骨、骨盤脊椎、股関節、膝関節の骨折または手術後、二肢以上の多発骨折または手術後	90日
外科手術または肺炎などの治療時に安静にしている生じた廃用症候群があり、手術後または発症後	90日
大腿骨、骨盤、脊髄、股関節、膝関節の神経、筋、靭帯損傷後股関節又は、膝関節の置換術後の状態	60日
急性心筋梗塞、狭心症発作、その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態	90日

●チームで行うリハビリテーション

医師・看護師・介護職員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなどがチームで取り組みます。リハビリテーションで伸ばした能力や介助方法などを、看護師や介護職員と情報共有することによって、病棟での日常生活においても出来るだけご本人の能力を引き出し、リハビリテーションの効果をより高めることができます。

